

石高神社

第二十三号

御祭神

御祭神 大己貴命 おおなむちのみこと 須勢理姫命 すせりひめのみこと

配祀 仲哀天皇 ちゅうあいてんのう 神功皇后 じんぐうこうこう 応仁天皇 おうじんてんのう

大己貴命は出雲神話の主役であり、別名もたくさんありますが、神話の「因幡の白うさぎ」に登場する大国主命として有名です。「国引き神話」に見られるように国土の開拓と運営に当たった英雄神であり、「国ゆずり神話」の天孫降臨に当たっては、国土を天津神に奉還した国津神の代表でもあります。また、仏教の守護神と習合して、七福神のひとつである大黒様としても知られています。美男の誉れ高く、多くの女性にもてたようですが、須佐之男の娘の須勢理姫命を正妻にしています。

仲哀天皇は、第十四代の天皇で神功皇后と共に熊襲平定に出向きましたが、負傷して亡くなられました。この意志を受け継いだ皇后は、難無く熊襲を平定し、さらに新羅へ進攻し、勝利をおさめました。凱旋直後、九州の筑紫で男子をお産みになりました。これが第十五代の応神天皇です。応神天皇は、大陸から新たな文学・産業などの文化を取り

入れた大和朝廷きつての文化人でした。応神天皇を首座に比売神（ひめがみ）・仲哀天皇・神功皇后を祀る神社は八幡宮と称し、九州の宇佐八幡宮を祖として全神社の三分の一を占めています。

由緒来歴

当社の創立年月はよくわかりませんが、現存する神名帳で一番古い備前国総社神名帳の綿抜本または総社本（八六三年頃）に石高神社と載っており、同山本本または八日市本（九三八〜九四七年頃）には正三位石高明神とあります。しかし、平安時代の諸制度を編纂した延喜式（九二七年）の神名帳には載っていませんので式外社（しきげしや）ということになります。当時備前の式内、式外古社は百二十八社あったと言われており、この内の一社です。

社伝によりますと、昔には今の宮山から北手にあります高倉山の頂上に大己貴命を祀る石高神社があり、今の嶽字岩坪に須勢理姫命を祀る八幡宮がありました。この両社を天和三年（一六八三年）頃に現在の地に合祀し、岩坪八幡宮と称して尊敬していました。このため、江戸時代の書物には、八幡宮として載っています。現在の地に移座した理由として二、三の説がありますが、当時山崎新田開発（一

発行日 平成十七年十二月一日
発行者 石高神社 宮司 高原 章兆
発行所 岡山市円山八五三
電話 〇八六―二七七―九〇〇三

六六四年)はすでに行われており、倉田新田開発(一六七九年)の直後であることから新田方面を守護する役目があったようです。事実、倉田新田は一六九五年までは石高神社および東の吉備津岡辛木神社の氏子でした。そのころには沖田神社が新田の守護神として建立されており、同じ新田だからと願いが出て倉益土手から南は沖田神社の氏子になりました。福泊新田は、新田開発に貢献のあった笠井邸の大黒柱より東は吉備津岡辛木神社、西は石高神社と二分したということです。

その後明治四年に旧号の石高神社に復し、幡多郷の総鎮守産土神と定められ、大正三年には村社になりました。幡多郷というのは、一七二一年編纂の備陽記によりますと、清水・赤田・藤原・高屋・関・沢田・山崎・円山・湊の各村をさしており、当社は古代から栄えていた操山山系の北側や新たに開発された南側の人々の生活や湊方面を航行する船の安全を護つて来しました。

社 殿

本殿と幣殿・釣殿・拝殿がつながった社殿および隨身門があります。これらは江戸時代後期のものですが、棟札が残っているのが貴重との評価を得ています。昔は社務所と絵馬殿もありました。社務所は老朽化のため使用に耐えられなくなったので平成元年に倒しました。絵馬殿は昭和三十年ころまで南東の端にあつたそうです。岡長平著の「ほつこう横町」にも載っているように貴重な民俗絵馬があつ

たそうです。

石高神社のおもな行事

歳旦祭および初詣

一月一日午前零時より歳旦祭を行います。この直後、または三が日の午前九時ごろから夕方まで新年の家内安全祈禱を行います。

どんど焼きおよび古神札焼却祭

一月十四日以降で最初の日曜日または祭日に境内にて行うことにしています。

平成十八年は一月十四日午前十時より行います。正月のお飾りのほか古札焼却も行います。なお、最近問題になっているダイオキシン発生のお点から、プラスチック類はなるべくはずしてご持参ください。当日ははずした後に焼きま

厄払い

二月一日に厄歳、祝歳の方がお参りする習わしです。二月一日または正月三が日、一月中の休祭日にお参りください。

輪くぐり(夏祭り)

七月三十一日晚は茅の輪をくぐる夏祭りの輪くぐりがあります。六月三十日に行っていた夏越しの祓えと備後国風土記の蘇民将来の故事に由来する疫病封じがいつしよになった祭りです、年の前半の罪・穢れを祓い、疫病から身を守ります。事前に配布された「ひとがた」に家族の生まれ

歳の干支、男女の別などを書いて身を払ってご持参ください。晚六時ごろから九時前までにお参りください。夜店も出て賑わいます。

春祭り・秋祭り

春祭りは五月中旬に祭典のみ行っています。秋祭りは十月三日から五日まで三日間あります。本来は春に豊作をお祈りし、秋に収穫できたことに感謝してお祝いする祭りです。三日の晩が氏参りの日になっており、この日は夜店やはっぴ姿の子供達とで賑わいます。晚六時ごろから九時前までにお参りください。五日は祭典を行っています。

七五三詣で

氏神様にお参りし、ここまで成長したお礼を言い、以後の無病息災を祈願します。十一月の休祭日にお参りください。

その他、初宮参り、当病平癒祈願、自動車清祓、家祈祷、地鎮祭等随時致しております。

末社紹介

八つの末社と東西南北に五つの遙拝所があります。拝殿西の木野山神社から右回りに紹介しました。お参りするときもこの順にお参りします。末社には◎印、遙拝所には○印を付けました。

◎木野山神社 高梁市にある木野山神社を勧誘したものです。流行病・精神病に関しての特別の信仰があります。

○王子山神社 嶽の山の上にある王子宮のことで、仁徳

天皇をお祀りしています。少し前までは牛神さまとして信仰を集めていましたが、現在は嶽の町内の守り神として、町内で毎年欠かさず春と秋のお祭りを行っています。

◎霊社 石高神社代々の宮司の御霊をお祀りしています。

◎天満宮 菅原道真を祀る大宰府天満宮をお祀りしています。学問の神様として有名です。二番目に大きな末社です。

○天御中主神(あめのみなかぬしのかみ)天地開闢の際、八百万の神々に先駆けて高天原に出現した神です。天の中心的な存在を意味するので御本殿の北側の真ん中にあります。北辰思想と一致して北極星や北斗七星を祀る信仰も加わっています。

○本社 石高神社を御本殿の北側から拝むことができます。

◎金磨宮 「かなまろさま」と呼ばれている性の神様で昔から多くの本に紹介されており、民俗学的に有名です。陽物もたくさん奉納されていましたが、心ない人によってかなり盗まれてしまいました。

◎稻荷神社 一切の食料をつかさどる倉稲魂神(うがのみたまのかみ)を主神としてお祀りしています。江戸時代の文献にも「末社稻荷」と載っており、社の造りも一番大きく細工も立派です。元は桧皮葺(ひわだぶき)でしたが、平成五年に銅板葺きにしました。

◎荒神社 火具土神を祀っていますが、民俗学的に一口

では言い表せない神で、広範囲にわたる産土神や火の神としての性格を持っています。

○伊勢神宮 皇室の祖先であり、天上天下をあまねく照らす最高の太陽神の天照大御神をお祀りしています。三重県伊勢市鎮座。

◎金祐稻荷 沢田の恩徳寺境内にある金祐稻荷（きんすけいなり）をお祀りしています。

◎豎巖稻荷 沢田の恩徳寺境内にある豎巖稻荷（たていしいなり）をお祀りしています。

○道通宮 沖元の沖田神社境内にある道通宮のことで、「四番のどうつうさん」として親しまれています。

ホームページ（HP）

平成十二年に開設しました。中国四国地方では早い方でした。宮司手づくりで特徴ある内容になっています。今年は夏祭りと秋祭りの日の夕方更新して夜店の出店情報をトップページに提供してみました。必要に応じて細かい所を不定期で更新していきますので時々見ていただければ幸いです。また、この度携帯用ホームページも追加しました。

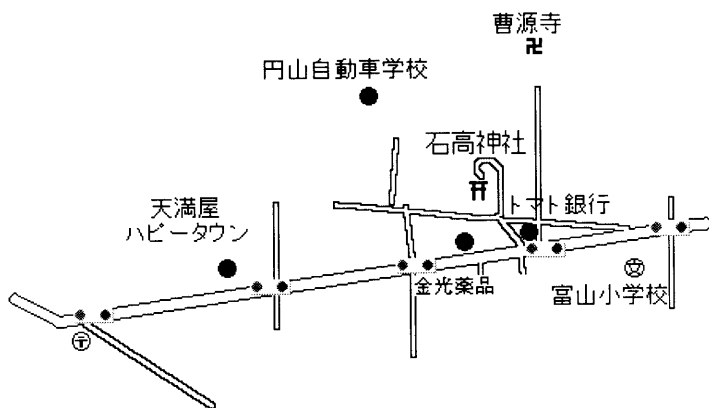
「祭りはいつ？夜店が出ますか？」という問い合わせが多いので、場所、祭りの日、電話およびその他の情報の四点に限って作成しました。HPのアドレスは次の通りです。

<http://www31.ocn.ne.jp/~ishitaka>

携帯用HPは下のQRコードをご利用ください。



石高神社の場所



後記

今回は総集編的な内容で裏表印刷にしました。石高神社の保存版パンフレットとして手元に置いていただければ大変嬉しく思います。社報配布など町内会長はじめ役員の方々にはお世話になり、ありがとうございます。